



# 尾関山ファンクラブ通信

## 尾関山ファンクラブ総会を開催しました

### 総会概要

日時：平成29年10月24日（火）  
14時～16時  
場所：三次コミュニティセンター  
1階大ホール

### 内容

- ①尾関山公園サクラ等植生管理計画の説明
- ②尾関山公園のサクラ勉強会  
講師：みずえ緑地(株)代表取締役  
樹木医 正本 大さん
- ③尾関山ファンクラブの活動内容
- ④役員を選任について



尾関山ファンクラブ会員数  
84名（H29.11.1現在）

平成29年10月24日（火）に、三次コミュニティセンター大ホールで、尾関山ファンクラブ総会を開催しました。参加者は27名でした。まず、尾関山公園サクラ等植生管理計画について三次市都市建築課から説明した後、みずえ緑地(株)代表取締役で樹木医の正本大さんを講師に迎え、尾関山公園のサクラ勉強会を行いました。尾関山公園の桜の現状や桜の特性についての説明、桜のボランティアグループの活動事例の紹介等がありました。

次に、今年度の尾関山ファンクラブの活動内容について三次市から説明を行い、役員を選任を行いました。立候補や推薦がなかったため、今回の選出はできませんでしたが、今後の活動のなかで選任できればよいと考えています。参加者からは、これから活動していくうえでの目標や活動予算、具体的な作業内容などの質問がありました。

樹木医の正本さんからは、尾関山のソメイヨシノは、県内でも最も古いもののひとつであること、また、ソメイヨシノは病虫害に弱いが、しっかり管理していくことで再生可能であるとの説明がありました。三次市都市建築課からは、予算の範囲内で効果的な取り組みをしていくこと、また、作業内容については、正本さんの指導のもとで業者が剪定を行い、ファンクラブ会員は、枝の集積や施肥を行う予定であると説明を行いました。

会員からは、尾関山が名所となるよう夢を持って活動したい、そのためには気運の醸成や具体的な目標設定が必要ではないかとの声がありました。正本さんからは、桜は実際に手を加えてみないとわからない部分がある。活動のなかで、尾関山の理想のかたちを会員の皆さん自身でつくってもらいたいとの言葉がありました。

最後に、12月4日（月）に実施する桜土手の伐採等の作業内容について確認した後、閉会しました。

## 尾関山公園サクラ勉強会



樹木医の正本大さんから、桜という名前の由来や開花までのプロセス、種類など桜についての基本的な知識について学びました。

①桜が咲くまでのプロセスは花芽形成⇒休眠⇒休眠打破⇒生成⇒開花であり、5～8℃を下回る寒さがないと、花が咲かない。

②尾関山で最も多いソメイヨシノは接ぎ木で育てるクローン種であり、美しいが病気に弱く、寿命が50年と言われている。しかし、密度管理により日照を良くしたり、通気性のある肥沃な土壌づくり、罹病枝の伐採など手入れの仕方によっては長命になる。

③尾関山は、桜土手と桜山が連続しているのが特徴的である。エドヒガンやシダレザクラの大木など、長命で1本桜として見応えのある桜も少なくない。間伐などで、1本1本の桜を大きくし生かしていくことが重要。

そのほか、一本桜の名所や、土師ダムや宮島、錦帯橋の桜ボランティアの取り組みについて紹介がありました。

また手入れによる桜の変化を、定点観測した写真でわかりやすく説明してくださいました。

尾関山の桜の現状や課題などにも触れていただき、今後の活動にとって有益な勉強会となりました。

